第１回　黒部ルート一般開放・旅行商品化準備会議　議事録

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　日　時：令和２年１月26日（日）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　10:00～11:58

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　場　所：富山県民会館401号室

１　開会

２　挨拶（石井知事）

　どうも皆様、おはようございます。本日第１回目の「黒部ルート一般開放・旅行商品化準備会議」を開催しましたところ、皆様方には大変お忙しい中、また日曜日ということで大変恐縮でございましたけれども、御出席賜りまして誠にありがとうございます。また西村先生、渡辺先生等々、県外からおいでいただいた皆様にも厚く御礼申し上げたいと思います。

　御承知のとおり、立山黒部は今までも国際的に知られた観光地でございますけれども、そのポテンシャルをもっともっと発揮すれば、まさに世界的なブランドになり得る十分な可能性のある地域だということで、今から３年前に「『立山黒部』世界ブランド化推進会議」を立ち上げまして、以来様々な検討、これはライチョウの保護のこと、登山道の整備といったことも含めてやってまいりました。

　こうした中で黒部ルートの一般開放・旅行商品化につきましては60年来の懸案でございましたけれども、一昨年の10月に関西電力さんとの間で協定を結ぶことができまして、令和６年度から年間最大１万人の一般開放・旅行商品化を実施することで合意することができました。

　これを受けて、関電さんにおかれましては、この協定に基づいて昨年10月に必要な許認可手続も完了されまして、一般開放に向けて本格的な安全対策工事に着手されているということでございます。

　今後一般開放されますと、立山黒部エリアが結ばれまして、世界的な山岳景観を誇る立山黒部アルペンルートと日本一のＶ字峡であります黒部峡谷との周遊が可能となり、また日本の電源開発の貴重な歴史を体感できる日本を代表する産業観光ルートともなることから、これは一富山県だけではなくて日本の観光立国のためにも重要だということで中央政府の皆様からも大変関心を持って後押しをいただいているところでございます。

　一方、旅行商品化に向けましては、県におきまして旅行事業者の方々や交通事業者の皆様と実務レベルのワーキンググループを立ち上げまして、黒部ルートを含む旅行商品化の満足度の向上をどうやって図るかといった検討を進めてまいりました。

　またこのことについては、今日大野市長が御出席でございますけれども、黒部市においても地元の関係の皆様によります検討組織を立ち上げていただいて、宇奈月温泉街などの魅力創出、また黒部ルートの一般開放・旅行商品化といかにタイアップして世界的な観光振興につなげていこうかという議論をしていただいているところでございます。

　黒部ルートの一般開放・旅行商品化が大きな起爆剤となりまして、立山黒部が真の意味で世界ブランドになる、あわせて立山駅から美女平のほうではロープウエイを整備するといったことにも、これは環境省などの理解もいただいて既に調査・準備に入っておりますし、そのほか称名滝へグリーンスローモビリティで御高齢の方や障害のある方もバリアフリーでアクセスできるといったことも進めておりますし、別途称名滝を見下ろす大観台の整備については環境省の直轄で環境保護にも留意しながらバリアフリーの施設を造る検討をしていただいているわけでございます。こうしたことで何とか立山黒部を文字通り世界ブランドといって恥ずかしくない、それにふさわしい姿にしていきたいと思っております。

　そういう意気込みで今日の準備会議も立ち上げさせていただきました。どうか皆様、よろしくお願いいたします。

　以上で御挨拶とさせていただきます。

３　委員長、副委員長の選任

【司会】

　それでは、議事に入ります前にお手元の資料１「黒部ルート一般開放・旅行商品化準備会議設置要綱」をごらんください。

　設置要綱第４条第１項では、委員長は委員が互選するとなっております。委員の皆様の中でどなたか御推薦はありますでしょうか。

【大野委員】

　私から提案がありますけれども、よろしいですか。

　それぞれ皆さん大変重要な方の御出席ですけれども、特に立山黒部に関する見識がお高くて、世界ブランド化推進会議でも座長をお務めになり、黒部ルートの一般開放・旅行商品化の件についてもよく御存じであります西村委員に委員長をお務めいただければどうかと私は提案いたします。

【司会】

　ありがとうございます。

　今ほど西村委員を委員長にという御発言がありましたが、いかがでございましょうか。

（異議なし）

【司会】

　ありがとうございます。

　御異議がないようですので、西村委員には委員長をお願いしたいと思います。

　西村委員、委員長席にお移りいただきますようお願いいたします。

　ここからの進行につきましては西村委員長様にお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。

【西村委員長】

　今ほど委員長に推挙いただきました西村です。よろしくお願いしたいと思います。

　先ほどからありました「『立山黒部』世界ブランド化推進会議」はもう足かけ４年目になりますけれども、大変粘り強い議論をやってきておりまして、その中で関西電力さんにも黒部ルートの一般開放を認めていただきましたし、それだけではなくてロープウエイの問題ですとか、先ほど知事からありました大観台の整備、また環境省の担当者にも会議に参加していただきまして、環境省としてはやや不安もあるみたいなのですけれども、ちゃんとこれは世界のためになるのだと、環境保全もやるのだということで様々な改善を認めていただきまして前進しているところであります。

　今回はその中でも黒部ルートの一般開放を中心に議論を進めて、また2024年のオープンまでにやるべきことは全てやるということで、皆様方のお知恵を拝借して、またワーキンググループで鋭意議論していただいていますので、そのこともここでオーソライズするような形で進めていきたいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

　それでは、ここから座って進行させていただきますけれども、議事に入ります前に、設置要綱によりますと委員長が副委員長を指名することになっております。私から指名させていただきたいと思います。髙木委員にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

４　議事

【西村委員長】

それでは、次第に基づきまして議事を進行させていただきます。会議の終了時間はおおむね11時30分頃を予定しておりますので、進行をよろしくお願いしたいと思います。

　また今日は初回ということもありますので、全員の委員の皆様方に御発言をいただこうと思っています。かなり論点が広いので、広域の視点、また地元の視点ということで少し整理しながらこちらから御発言をお願いしようと思いますので、よろしくお願いいたします。

　それでは、議事の１番目「黒部ルートを含む旅行商品の満足度向上」につきまして、ワーキング会議での検討結果を、本日座長を務めておられます山田先生が御欠席のため、副座長の渡辺委員より御報告をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

（渡辺委員より資料２に基づき説明）

【西村委員長】

　３回のワーキンググループの議論が随分多彩なものだとよく分かりました。

　それでは、続きまして、次年度の取り組み案につきまして、資料３に基づきまして県から説明をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

（事務局より資料３に基づき説明）

【西村委員長】

　ありがとうございます。

　それでは、続きまして議事２「宇奈月温泉街等の魅力創出、地元の受入態勢整備」につきまして黒部市より説明をお願いしたいと思います。

（黒部市より資料４に基づき説明）

【西村委員長】

　ありがとうございます。

　それでは、ここで次の話題ですけれども、関西電力から一般開放・旅行商品化の前提となる黒部ルートの安全対策工事の状況につきまして資料をいただいておりますので、本日御出席の藤井委員から御説明をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

【藤井委員】

関西電力の藤井でございます。

　それでは、お手元の「宇奈月黒部ルート安全対策工事」というタイトルでございますA4横のパワーポイントの資料に基づきまして説明させていただきたいと思います。

　資料左上にルートの概要図をお示ししております。宇奈月からのトロッコ電車の終着駅であります欅平駅から黒部ダムまでの間約18キロメートルございますが、このほぼほぼトンネルの間に安全対策を行います。ちなみに宇奈月黒部ルートと書いてございますけれども、これは以前の会議でも申しましたが、立山黒部アルペンルートと名前がちょっと似ているところもありまして、区別する意味でこういった名前を書かせていただいたことを御理解いただきたいと思います。

　左下に「１．工事概要」を書いてございますが、安全対策工事は大きく４つございます。

　１つ目に①としまして上部軌道のトンネルにはモルタル吹きつけ等の安全対策を行います。

　②の上部軌道の横坑２箇所を利用しまして避難通路の整備を行います。

　③の上部軌道の車両につきましては非常脱出口の設置等のために車両を全て更新いたします。

　④黒部トンネルですけれども、これは「くろよん」建設時の比較的新しいトンネルではありますけれども、背面グラウト等の安全対策を行います。

　右上に行っていただきますと、「２．工事工程」をお示ししております。

　工事の関係①②④につきましては、昨年10月15日迄に関係機関から御許可をいただいておりまして、①の上部軌道のトンネルにつきましては10月22日に現地工事を着手しております。

　②の避難箇所につきましては、その工事の進捗に合わせる形で順次2022年度から着手する予定であります。

　③の車両更新につきましては、現在、車両設計を終えてございまして、今後購入手続、その後車両の製作に入っていただく予定になっております。

　④の黒部トンネル安全対策につきましては、2020年８月にする予定となっております。

　「３．工事環境」を示しておりますが、これは２ページに写真等でお示ししておりますので、２ページをごらんいただければと思います。

　２ページの４つの写真は上部軌道トンネルの安全対策工事の作業状況の写真でございます。

　左上の「１．岩盤はつり作業状況」でございます。これは岩盤の中で比較的弱い岩盤に、モルタルを吹きつけるのですけれども、モルタルを吹きつけることによって既設のトンネル幅が確保できない狭いトンネルにつきましては、写真でご覧いただいているように、作業員が手作業で岩盤をはつっているところでございます。

　「２．モルタル吹付け作業状況」でございます。トンネルの適切な強度を確保するために、砂利・石等が入っていないセメントを、約５センチの厚さで吹きつける作業を行っているところでございます。

　「３．資機材運搬状況」でございます。そういったモルタル材を上部軌道の狭いトンネルの中をこのように電車で運搬している状況でございます。

　「４．黒部奥山での作業員宿舎」でございます。写真中央、ちょっと見にくいのですけれども、峡谷の壁の平らな部分のところに一部コンクリートの構造物が真ん中のほうにございますけれども、これが作業員宿舎でございます。今年は記録的な暖冬ということもあって積雪の状況は１メートルもございませんけれども、夜間はもちろん零下になります。こういった厳しい環境の中、繰り返しになりますけれども、このルートは、日中は私ども発電所等の維持工事・保守工事用に使用するために、安全対策工事は今後４年間にわたりまして通年夜間の作業になります。作業は実際のところ夜の20時くらいから明朝４時ぐらいの間でございまして、１日平均30名くらいの方が現地で頑張っていただいております。現時点で大きなトラブルは発生してございませんけれども、食事の確保ですとか通信手段の確保、また雪崩の危険性だとか万が一のための避難路の確保だとか、そういった注意しなければいけないことがたくさんございますけれども、作業員の安全と健康には十分留意して最優先に工事を進めてまいります。皆様からの早期の運行開始ですとか様々な期待の声はございますけれども、何とぞ皆様におかれましては無事の竣工を温かく見守っていただければという気持ちでございます。

　説明は以上でございます。

【西村委員長】

　どうもありがとうございました。大変な難工事をやっていただいているということでございました。

　それでは、県、黒部市から検討状況と次年度以降の取り組みにつきまして御報告いただきましたけれども、次年度以降の取り組み案を中心に委員の皆様から御意見をいただきたいと思います。先ほど申し上げましたように、今日はオール富山、それから、全国の視点からの御発言をまずいただいて、そして地元からの御発言というふうに２つに分けて御意見をいただこうと思います。申し訳ありませんが、こちらから御発言を指名させていただいて、２度目以降は手を挙げていただければ当てたいと思いますけれども、まずは１ラウンド御発言をお願いしたいと思います。

　旅行業の観点から平出委員、いかがでしょうか。

【平出委員】

　JATAの平出と申します。よろしくお願いいたします。

　先ほどから皆様方のお話をお聞きしておりまして率直な気持ちを申し上げますと、とてもわくわくしているというのが正直なところでございます。これは売る側の立場からということと買う側の立場両方から見ても、とてもわくわくしてきているというのが率直な意見でございます。

　私たち旅行会社が商品を造成、そして販売に至るまで期間が当然必要となってくるわけなのですが、一般論で申し上げますと、大体発売時期が上下年２回発売する形をとっています。発売のタイミングの半年から10か月前くらいから次の期の商品ラインナップをどうするのだという企画を一般的にはやっている。これは商品の内容によって作業はまちまちではありますけれども、一般論としては10か月から半年前くらいが大体の流れだと思います。

　そういう中でいかにいろいろなお客様に周知して御参加いただくという部分に関してはそれなりの時間も必要でございますし、どこにフォーカスして商品造成していくのかというところの見極めもある意味必要ではないのかなと思います。そういう意味ではやはり「黒部の太陽」のあの世代はまさにストライクのゾーンだと思いますし、あとは一過性ではなく長い期間、何年もお客様に来ていただくという部分に関していきますと、やはりテーマ性をどこかで持たせたような企画内容も必要ではないのかなと。そうなりますと個、個人に対して売る戦略とグループとして売る戦略と両方考えることも必要ではないのかなという意味では、私たちもかなり知恵を絞らないといけない素材だなと思っております。

　いずれにしましてもこの商品をフックにして宇奈月ですとか立山ですとか富山県内にお客様に来ていただいて、そこで滞在していただいて、ほかの県内の施設に足を向けていただくという部分に関していけば、私たちも知恵の絞りようがある内容ではないのかなと考えております。

　取り留めのない話ですみません。以上でございます。

【西村委員長】

　どうもありがとうございました。

　続きまして、観光業及び交通事業者の観点から佐々木委員、お願いいたします。

【佐々木委員】

　JR東日本の佐々木です。よろしくお願いいたします。

　今、いろいろな御説明がございましたので、すごく壮大な立山黒部のブランド化という大きな方向性に基づいて、みんなで協力し合って１つの方向性を向いてということが渡辺委員からもありましたが、それがすごく重要だなということを改めて認識させていただいた次第であります。

　私が今、御説明を聞いている中で感じたことは、やはり１つは連携感というか、統一感を出していくことがすごく大事なのだろうなと感じながら聞いておりました。例えば渡辺委員のほうで御説明になったソフト面の満足度向上のガイドの話であっても、立山黒部アルペンルート様のほうでも既にガイドをやっていらっしゃいますし、宇奈月でもボランティアガイド、また黒部市様のほうでもガイドということでいろいろやっている中では、最終的な見せ方を黒部ルート、立山黒部のブランド化に紐づいてくるようなものにしていくことが相乗的なイメージを作り出していくことにつながるのではないかなと。大体こういうものはその地域だけのものとなりがちになってしまうのを他県の事例で見てきている中では、大きなブランド化の中でそれが連携していくことが大事なのだろうなと。黒部ルートの旅行商品化は100年に一度くらいのすごいことなのだということをそれぞれのエリアの方が認識して、ガイドのレベルアップなどに励んでいくことは大事なことなのだろうなと。そういう意味ではうまく連携感を出すのをこの会議なのか、いろいろなところでやっていく必要があるのだろうなとすごく感じた次第であります。

　もう一つは、2024年度と言っておりますが、こちらに記載されている中でも来年は立山黒部アルペンルート50周年という大きなトピックになりますし、その後北陸新幹線の敦賀延伸。そういう意味では関西マーケットと非常に近くなることもあって、毎年毎年すごいイベントがあった中で2024年を迎える。またその後には大阪万博もあるというような中では、それを個々のイベントだけで終わらせることなく、常に黒部ルートの商品化、もしくは立山黒部のブランド化のレガシーというか、それにつながるような立山黒部さんの50周年のアルペンルートの開業であってもらいたいと思いますし、そういうものがひもづくところを民間と県とやることをきちんと明確にしなければならないと思うのですけれども、同じ方向性に向かってやれることがいいのではないかなと今の御説明を聞いておりまして感じたところでございます。

　以上でございます。

【西村委員長】

　どうもありがとうございました。

　それでは、同じく交通事業者の観点からJR西日本の前田委員、お願いいたします。

【前田委員】

　JR西日本の前田でございます。

　今日の御説明を伺いまして一言で申し上げると、本当に夢のあるプロジェクトだなと大いに期待が盛り上がったなという気がしています。ワーキングなどを含めて様々に勉強していただいていることもよく理解できまして、これまで頑張って努力なさってきた関電さん、県を初めとする関係者の皆様の御努力には敬意を表したいと思います。

　いろいろ話を伺っていて思ったのですけれども、これを本当に特別な景観、特別な歴史あるいは産業観光としての要素、様々な要素を持っているものをどんな人たちにどういうふうに伝えるのだろうということが非常に大事なのかなと思いつつ、参考に思い出したのが、私どもがやらせていただいている豪華寝台列車瑞風という列車のことでありまして、これも要するに毎日走っているわけではなくて１泊２日とか２泊３日のコース、週末を中心に最大34名しか乗れないのですけれども、募集をかけてサービスをする。そしてそれぞれのコースごとに定めたお立ち寄り地で瑞風のお客様用の施設を見学していただいたり、料理を召し上がっていただいたりといった特別なサービスを提供する。しかも値段はどうかといいますと、１泊20数万円から最も高いもので100万円以上するというような中で、10倍以上の倍率で人気を継続させていただいているというようなことであります。

　今回のプロジェクトもある意味非常に特別な、ここにしかないすばらしい素材でありますので、そういった意味ではそのすばらしさをどんな特別な形で物語を構成し、どんなターゲット層にどんなプライシングでアピールするか、このことによって価値が大きく変わってくるのではないかなと感じました。平たく言うと安売りせずに特別なサービスをそれに見合った値つけで本当の意味でブランド化していくというようなことが大事だと感じました。

　私どもはJR東日本さんなどと協力させていただきながら、プロモーションという意味で観光キャンペーンを行い、令和６年となりますと敦賀まで新幹線が伸びてございますし、政府目標を見ましてもインバウンドの方も今以上に、先ほどJR東日本佐々木所長からあった様々なイベントなども含めて伸びているだろうと思っています。引き続きJR東日本さんなり各県あるいは観光関係の皆様方とやらせていただいている観光キャンペーンの中でもこういったものを目玉の１つとして位置づけながらPRしていくようなことにはできるだけ努力させていただければと思っております。

【西村委員長】

　どうもありがとうございます。

　続きまして、富山県DMOの会長でもいらっしゃいます髙木委員、お願いいたします。

【髙木委員】

　商品化はいわゆるプロの方にお任せするほうがいいのではないかと思いますけれども、やはりプロモーションは地域を挙げてやっていく必要があるのかなと思っております。今ほどJR九州のななつ星とか瑞風とかいろいろ出ていますが、このPR費は恐らく１億や２億ではないですよね。では１つの県でこれだけできるかということなのですが、経済界も挙げて、地域も挙げて、資金も出して、それぞれの立場で相当やっていきませんと、今までの施策はみんなすばらしいのですが、知っている人は知っているということになっていますので、そういうところもはっきりとしてやっていったらいいなと。例えば前田さんがおいでですから、金沢駅でもそのコーナーを作って無料でずっとやっていただくとか、お隣の高山でもやるとか、糸魚川でもやるとか、少し広域にやっていくことが大事だろうと。４年ありますので、どの辺から始めるかはまだいろいろあると思いますが、相当周りの人に御協力もいただく、その代わり私どもも一生懸命資金を集める、そしてお金だけでなくボランティアも含めて東京・大阪で一生懸命PR活動する、そういうことがないと、富山弁でいうと「なーんしらんちゃ」で終わってしまうことを危惧しております。

　以上です。

【西村委員長】

　ありがとうございます。大変具体的な提案もいただきました。

　それでは、先ほども御発言いただきましたけれども、黒部ルートを管理されております関西電力の藤井委員、もう一度お願いいたします。

【藤井委員】

　度々ですみません。私どもはそれぞれ関係が多少深いところもありますので資料ごとになるべくポイントを絞りますが、何点か発言をお許しいただければと思います。

　まず資料２の満足度向上に関してでございますけれども、先ほど御説明しましたが、満足度という言葉に関して私どもとしましてはお客様が安全に通行できることが何よりも最高のサービスではないかと思いますし、したがって安全対策工事をしっかり確実に実施し、また一般開放部分においても安全最優先の考え方は変わらずにしっかりやっていきたいと思ってございます。

　もう一つ忘れてならないのは、この地は過去の工事において大自然の驚異等において大変多くの方が犠牲になられた場所でもあります。したがって、言わずもがなではございますけれども、少なくともこのルートの魅力を考える上においては、どきどきはらはらというよりも大自然への畏敬の念ですとか、お亡くなりになった方への尊敬の念、さらには苦難に立ち向かわれた先人たちへの敬意の念といったことをしっかりと忘れることなく念頭に置きながら様々な施策を考えていくべきではないかと思ってございます。

　その上で資料２のサプライズの項目に関してでございますけれども、１例を申し上げますと、例えばドローンによる記念撮影は、ドローン落下時のダム等の設備保安上の観点からですとか、また皆様も御存じのとおり、ダムの上は大変不特定多数の方がいらっしゃいます。したがって、こういった安全面からも現在、ドローンの飛行は禁止させていただいておりますので、何とぞ御理解をいただきたいと考えております。

　一方で工事用品でございますけれども、展示等につきましては現在も宇奈月にあります黒部川電気記念館におきまして電源開発の歴史をたくさん学んでいただく写真・ビデオ、また破砕帯突破などのモニター展示コーナーもございますが、今後さらに追加としてどのようなものが必要なのか協議させていただければありがたいと思ってございます。

　資料３でございますけれども、ガイドの充実について各委員の皆様がおっしゃるとおり大変重要だと我々も認識してございます。現在は発電所の所内は私ども当社の社員、その他ルート内は黒部峡谷鉄道のOBの方に委託してガイド、案内していただいておりまして、電源開発の歴史ですとか当時の大変な苦労話ですとか、お客様からも好評をいただいていると思います。しかしながら、実は高齢化がかなり進んでございまして、こういった場で申し上げることはあれですけれども、今後のことを考えた場合には研修だとかマニュアル化以前に、実は要員の確保そのものがなかなか難しい問題だと考えてございます。したがいまして、要員確保の観点でどういった施策を打っていったらいいのだろうか、また機械化できることはインバウンド対応も含めて最新の技術を適用するなど、今後の大きな課題として検討・協議してまいりたいと考えております。

　一方でプロモーションでございますけれども、実は私どもが昨年ドローンで撮りました4Kの映像がございまして、宇奈月にあります黒部川電気記念館で２月に試験的に放映する予定になってございます。これはもちろん関係法令の手続等をとった上で人のいない時間帯で設備保安に十分配慮しながら撮影・編集したものでございます。私も先日ドラフト版を見ましたけれども、ふだんは見ることができない本当に高い角度から60インチの大画面でとても迫力のある魅力ある映像でございまして、皆様もぜひ一度足を運んでいただいて楽しんでいただければと思っておりますし、プロモーションに関しましてもこういった映像も活用できるのではないかと考えますので、今後調整させていただきたいと思います。

　最後に１点だけ、商品化連携会議の設置でございますけれども、本当に具体的に詰めなければいけないことがこの資料に書いてあるとおりたくさんございます。４年後でまだ時間があるようでございますけれども、余り時間がないと思いますので、ぜひ早く運営主体を決めていただいて、責任ある関係者間で協定書に基づいた実務的・具体的な点についてしっかりと詰めていきたいと思ってございます。

　説明が長くなりましたが、以上でございます。

【西村委員長】

　どうもありがとうございます。また具体的な御提案をいただきました。

　続きまして、黒部ルートと接続するルートの関係の２人の委員に御発言をいただきたいと思います。

　まずは立山黒部貫光の見角委員、お願いいたします。

【見角委員】

　立山黒部貫光の見角です。

　今まで閉ざされていました黒部ルートが今回旅行商品化されるということで、立山黒部としても魅力的な観光地になるのではないかなと非常に期待いたしております。

　先ほどお話がありましたけれども、アルペンルートとしましても来年全線開通からちょうど50周年ということですので、私どもとしても早い段階から50周年に向けての機運を高めてまいりたいと思っておりまして、黒部ルートの開放につきましてもそういったことで連携をとっていければよろしいかなと思っています。

　そんな中の１つの手法としてガイドの話がありました。私どもは今、TATECOという形でガイドを商品化しておりますけれども、この辺につきましても今後乗り物とグルメ等も含めまして少し充実させた商品にしていきたいなと思っております。

　いずれにしましてもこのルートは御存じのように、先ほど藤井さんからも御指摘がありましたけれども、長い歴史の中で尊い多くの犠牲と大変な苦労があって今日に至っておるわけですので、私たちは決してこれを忘れることなく商品化できればいいかなと思っています。そういった意味でリスペクトした思いで当たらなければならないかなと思っております。

　旅行商品とすれば歴史的な資産の紹介ですとか、トロッコ電車や立山ロープウエイも含めますので、いろいろな乗り物を乗り継いで立山黒部を皆さんに紹介していただければと思いますし、これらの絶景ですとか富山の絶品のグルメがたくさんございますので、そういったものも品格のある商品化づくりをして盛りだくさん、魅力的なものとしてこれから作り上げていく必要があるのではないかなと思います。

　先ほど渡辺先生からもおっしゃいましたけれども、100年に一度の商品だということを非常に重く受け止めてこれから進めていけばいいのではないかなと私は思っています。将来的にも立山・美女平間のロープウエイ構想もこれに結びつけられるようないい商品でありたいと思っています。

　私からは以上です。

【西村委員長】

　ありがとうございます。

　続きまして、黒部峡谷鉄道の鈴木委員、お願いいたします。

【鈴木委員】

　ただいま御紹介いただきました鈴木でございます。

　私どもは関西電力様が黒部峡谷で維持されています今や重要な電源でございます低炭素の水力電源のメンテナンスのための資材・人員運用・運送という重要な役目を全うしつつ、たくさん来られますお客様のための観光鉄道という使命を全うしているつもりでございますけれども、今後黒部ルートの一般開放に伴いまして、地元の皆様と協力しながら魅力の創出や手前ども自身のお客様のお迎えのための準備、あるいは設備の充実に努めていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

　ただ、先ほどガイドのお話が出ましたので御紹介しますと、お恥ずかしい話なのですけれども、先日当社のOBになられます方にぜひ沿線のガイドをよろしくお願いしますと申し上げたのですけれども、ちょっとゆっくりしたいのでとお断りされまして、人の確保には我々自身なかなか苦労している状況でございます。ガイドの養成については先進的な取り組みも皆様もされていくようでございますので、ぜひいろいろ御相談をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

【西村委員長】

　ありがとうございます。トンネルが多いので本当にガイドは重要だと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

　それでは、ここまで前半の御意見をいただきましたけれども、ここで石井知事から一言いただけますでしょうか。

【石井知事】

　皆様からそれぞれ大変貴重な御意見をありがとうございました。

　先ほどの渡辺委員の御報告にもございましたけれども、平出委員さんもおっしゃるように、例えば「黒部の太陽」世代が１つターゲットであるといったお話もありましたし、また個に対して売る戦略、グループに対して売る戦略いろいろ必要だというのもごもっともだと思います。

　ただ、同時に100年に一度の新しい商品ということでもありますので、「黒部の太陽」世代だけではなくて、将来を担う若い世代にうまく黒部ルートの歴史的な意義とか、先ほど来出ております自然への畏敬とか、困難に立ち向かった先人たちへの敬意とか、そういった精神的なものも含めて次の世代にうまく伝えていく機会にもなるように、またそのことが日本人だけではなくて外国から来る皆様にもそうした日本人の取り組みが世界に伝わるというふうな方向に持っていければなと思っております。

　それから、佐々木委員さんなどからありました、黒部ルートのガイド、立山黒部アルペンルートのガイド等々、なるべく個別個別ではなくて立山黒部世界ブランド化の一環としてできるだけ連携、一体感を持って取り組んだほうがいいのではないかということはごもっともだと思いますし、また５年後の関西万博とか３年後には敦賀開業とかいろいろなことを念頭に置いてこの取り組みを、一般開放そのものは2024年度からと決まっているわけですけれども、様々な準備をそうした国の内外の様々な出来事、予定、大きなイベントとの関連に留意しながら進めていきたいかなと。もちろん開湯100周年とかいろいろなことももちろんです。

　それから、前田さんから豪華寝台列車のお話などもありました。すばらしい素材ですから、おっしゃるようにどんな方式でそれにふさわしい値つけで販売するのかといったことも大事なことだと思いますので、またいろいろな御意見もあると思いますけれども、そうした問題意識を持ってやっていかなければいかぬと。

　また髙木委員さんがおっしゃったプロモーションについて、地域を挙げて、役所・行政だけではなくて経済界を挙げて取り組もうと。大変ありがたいお話でした。金沢駅でも高山駅でも糸魚川駅でもとありました。心強いサポートのお話だと感謝申し上げたいと思います。

　関連で改めて思い出したのですけれども、黒部ルートの一般開放・旅行商品化を一昨年10月に関電の岩根社長といろいろな交渉の結果ですけれども、何とかまとまったときに一番喜んでくださったのは何といっても黒部の宇奈月温泉の皆さん方だとは思いますけれども、県内でも随分多くの方に関心を持ってもらいましたし、実は首都圏とか関西圏でも、関電さんが関西に拠点を置いていらっしゃるせいもあるでしょうけれども、黒部ルートが一般開放されることはすばらしいと随分あちこちで聞きました。

　あわせて私はある意味では意外に思って、よく考えてみればそうだなと思ったのは、例えば金沢のホテルのオーナーの皆さんとか経営者の皆さんと北経連なんかの会合で顔を合わせたりしますと、誰よりもすごく喜んでいただいて、よくぞ実現してくれた、自分たちにとっても新しい観光客等々の獲得につながると。やはり金沢のホテル業・観光業の皆さんはまさに広域でものを考えていらっしゃるなと。富山県でも皆広域に考えている方は多いのですけれども、そうした視野で見ていらっしゃる人がたくさんいることを我々も念頭に置いてしっかりと取り組んでいかなければいかぬと。何となく立山黒部というと富山県でも東のほうの話だと受け取るのではなくて、当然全県的な問題だし、実は北陸や高山いろいろなところを含めて日本の中部地域を代表する、日本を代表するプロジェクトなのだとみんなが思って力を合わせなければいかぬと思います。

　また藤井委員さんからはまさに黒部ルートの苦難の道に立ち向かった先人への敬意という話もありました。そのとおりだと思います。ドローンについての記念撮影は禁止ということだそうですけれども、これはドローンに関するいろいろな技術も向上していったり、国レベルでも安全面でのいろいろな配慮がなされるのではないかと思いますので、またこれは時間をかけて御相談していかなければいけない。

　またガイドの養成は何人かの方がおっしゃったとおり大変重要でありますが、同時にトンネルの多いところですから、おっしゃるように黒部ルートのガイドをぜひやりたいという人ももちろんいらっしゃる反面、恒常的にずっとやっていくことについてはなかなか大変だから、本当にそれなりの方を確保できるのかということがございます。同時に外国の方にもぜひ来てほしいし、昨年「世界で最も美しい湾クラブ」世界総会というのを富山県でやったのですけれども、フランスから来た人、カナダから来た人、いろいろな方々が黒部ルートの話をするとやはり関心を持つのです。ですからガイドさん方には何人かは英語ができる方も配置しておかなければいけないことを考えますと、この問題は結構大事なテーマだと思います。ですから黒部市でも宇奈月温泉の皆さん、あるいはもちろん関電さんはもともとガイドを持っていらっしゃるのですが、富山県も観光未来創造塾で毎年一定数のガイド養成をしていますし、その中にはインバウンド向けに外国語ができる人も養成しておりますから、幸いまだ３～４年ありますので、この間にどういうふうにしてどんなガイドの方を養成していったらいいのか、もちろん別に全ての人が英語ができる必要はないと思いますが、よく御相談しながら現実的にしっかり対応できる実践的で顧客満足度の向上につながるやり方をしっかり取り組んでいきたいなと思います。

　また見角さんがおっしゃったように、まさに立山駅から美女平のロープウエイとか称名滝へのグリーンスローモビリティの話とかいろいろなことがつながっていまして、立山黒部に来る方がややもすると美しい景色を見て通過していくだけということになりがちなのを、しっかり滞在型にして、そこで自然と触れ合う、学ぶ、過去の歴史的・文化的なものにも触れて、そこで新たな感動がある、そういうまさに世界水準の立山黒部となるように頑張っていかなければいかぬと、皆様の御意見を伺って改めてそういう決意を新たにしたところでございます。どうぞよろしくお願いします。どうもありがとうございました。

【西村委員長】

　ありがとうございます。

　まだ続きますので。随分時間が押しておりますけれども、申し訳ありません。

　それでは、ここからは特に地元の側からの視点で御発言をいただければと思います。

　まず県内に拠点を置く旅行業の観点から永守委員にお願いしたいと思います。

【永守委員】

　富山県旅行業協会の永守です。

　私どもが組織する全国旅行業協会はこの富山県を含めて47都道府県全てにその協会があります。年間３回程度、全支部から責任者を集め全国会議を開催しています。その会議の中、この立山黒部アルペンルートが話題に上がることが多く、この度の黒部ルートの開放は観光に関わる企業として期待値が非常に高いように思っています。

北陸新幹線開業の折には石川県・福井県・新潟県の各支部からは「世界に冠たる山岳観光の雄、キラーコンテンツ」になると思うし、隣接県としては大変脅威に感じているという発言をよく聞きました。

従って、個人的にも企業的にも非常に期待しています。

　ただ、１万人という人数制限もございますし、値段、売り方、見せ方、ＣＭ方法などいろいろ考えながら販売していかなければならないでしょう。無限大に販売できるならそれに越したことはないのですが、その売れる数に制限がある以上、難しい問題になってくる可能性がありますので留意していかなければならないと思います。

　一番の売り手はやはりインターネット、ウエブを利用したＰＲ販売だと思います。日本国内のみならず世界に向けても販売可能でしょうし、２４時間、３６５日オープンでいつでも、どこでも買うことができるということは何物にも代えがたいのではないかと考えます。人数制限があるので値段も安いものではなく、高級なツアー、プレミアム感を持ったツアーとして値付けるべきだと思います。

　いずれにしても今後の展開そして具体案をワクワクしながら考えるお手伝いができたらと思います。

【西村委員長】

　ありがとうございます。

　続きまして、宿泊事業者の観点から坂井委員、お願いいたします。

【坂井委員】

　富山県ホテル旅館組合の坂井です。いつもありがとうございます。

　こんなに濃い内容とは思わなくて、非常にうれしく思います。

　個人的な話ですけれども、ルートが開放されるときはまだ63歳なので若いうちでよかったなと思っておりますし、先ほどいろいろキーワードが出ました。「世界ブランド」あるいは「100年に一度」「プレミアム感」「滞在」ということで、我々ホテル旅館事業者としてはやはり圧倒的に１泊が多いものですから、そうではなくてもちろん県内の西東で１泊ずつもいいですし、石川県も含めて１泊２泊３泊というようなことも十分考えられますので、そういった面では非常にお客様の滞在時間が長くなることが考えられると思います。もちろん１万人しかこのルートには行けないのですけれども、それはそれとして、でもすごく宣伝されると思いますので、富山県の認知度がすごく上がるところに非常に期待しておりますし、大きなイベントも目白押しですし、2023年には敦賀延伸、次の年には黒部ルート、もうちょっと待てばまた大阪まで延伸ということで西からも東からも入れますので、我々にとってはありがたいことだなと思っております。我々もしっかりおもてなしできるようにやっていきたいなと思っておりますので、どうぞよろしくお願いします。ありがとうございます。

【西村委員長】

　ありがとうございます。

　続きまして、地元宇奈月で宿泊事業を経営されております濱田委員、お願いします。

【濱田委員】

　黒部の電源開発の歴史を語ると大体４時間から５時間くらいかかるので、今日はそんな時間がございませんので簡単に。

　今から106年前に高岡で生まれた高峰譲吉がアメリカのアルコア社との合弁会社でアルミの精錬を計画いたします。日本側の資金はというと、高峰先生が開発したタカジアスターゼ。これは今の三共製薬の漢方胃腸薬であります。これは富山の薬屋さんで実は作っております。メーカーは申し上げられませんが、パッケージに販売元は第一三共製薬と書いてあります。今から106年前にそういう構想をいたしまして、大正８年に東洋アルミナムという会社を創ります。去年がちょうど100周年だったのです。

　それを今、振り返ってみますと、高峰譲吉がそういうふうに構想したのは、今、富山県のアルミ産業、そして薬、これが100年前からそういうスタートを切っているのは、いろいろ歴史を振り返ってみて私は非常に驚きであります。

　高峰譲吉先生が亡くなったのが大正11年、1922年、ちょうど敦賀延伸の前年が没100年を迎えるわけです。先ほど知事から金沢のホテル関係等言われました。金沢の人とよくこういう話をするのは、高峰譲吉は高岡で生まれて金沢で育っています。あと事業を引き受ける日本電力の山岡順太郎は金沢出身です。その後を受ける山田胖を紹介した石黒五十二も金沢出身。黒部川の電源開発と金沢は切っても切れない関係があるわけであります。ちょうど開湯100年に向けてそういった歴史を、非常に詳しい河田自治振興会長もいらっしゃいますが、我々はいろいろ先人たちがやってきたことを思い起こしながら伝えていかなければいけない。

　幸い黒部川水系発電施設群は2017年12月８日にイコモスで20世紀遺産として選定されたわけであります。これを機会に次の世界遺産に向けて我々が発信していく務めがあるのではないかなと思っております。

　今から27年前にそういった施設群あるいは黒部の自然を描いていただいたのがセレネ美術館で今、所蔵している平山郁夫先生。そして去年の大嘗祭の屏風を描かれた田渕敏夫先生。今年は明治神宮鎮座100年で、髙木委員はその辺は非常に詳しいわけでありますが、明治神宮の100年記念、そこの屏風を描く手塚雄二先生。これら全ての先生方に電源開発の話をしながら作品としてセレネ美術館に残してあります。こういった作品、平山先生の場合、著作権でクリアしなければいけない部分はありますが、あとの方は全て著作権を私どもセレネで持っておりますので、そういったものをどんどん取り入れてやっていかなければならない。特に質の高いものを我々は商品化というか、とにかく黒部、富山のファンをつくるといったことに努めていきたいなと思っています。

　本当に高峰譲吉先生のニューヨークにあった別荘にあった壁画とかいろいろなものが、今、高岡市に寄附されまして、今年の４月には高岡商工会議所の一角で高峰先生のそういったものを展示されますが、これもずっと永久に高岡には寄附されましたが、施設の狭さとかそういったいろいろな問題がありますので、高峰譲吉を我々は捉えていかなければいけない。野口英世が教科書に載っていて、何で高峰譲吉が文科省の教科書に載っていないのだと。我々はずっと高峰譲吉を訴えていかなければいけない。そういう務めがあると思っています。

　長くなりましてすみません。

【西村委員長】

　ありがとうございます。高峰譲吉没後100年も取り入れられるのではないかと。ありがとうございました。

　それでは、地元宇奈月の住民のお立場から河田委員、お願いいたします。

【河田委員】

　宇奈月の自治振興会の河田でございます。よろしくお願いいたします。

　今、濱田さんも言いましたが、宇奈月温泉は高峰譲吉の構想から始まって、電源開発と宇奈月温泉とはほぼ一体的になって発展してきた地域でございます。そういう観点からして黒部ルート一般開放・旅行商品化はまさにこれからの100年を考えたときにとてもふさわしいプロジェクトではないかなというふうにして、ありがたいし、期待するところであります。そういう観点から黒部ルート開放に向けて我々がいろいろな形で宇奈月温泉の、あるいはその周辺の魅力開発に努めたいと思っております。

　先ほど黒部市から宇奈月温泉を取り巻く環境の整備というか、そういうものについて御説明がございましたので、それについて若干補足をしながら話をさせていただきたいと思います。

　まずガイドのことについてでございますが、来年度に向けてスタートしたい。ルート開放に先駆けてガイドの養成、あるいは実施に努めていきたいと思っております。宇奈月温泉全体がこれまでボランティア的なガイドは以前にはございましたが、今はございません。そういう中で個々のガイドをしていただく方は若干いらっしゃいますが、組織としてはなかったということなので、来年からスタートしたいということです。何でもかんでもやるわけではなくて、１つは宇奈月温泉街のまち歩きをやる。それから、先ほど説明のあった宇奈月の周辺のトレッキングができるようなガイドが必要であるということであります。それと併せて電源開発の歴史あるいは宇奈月温泉の歴史をきちんと伝えていく語り部的な役割を果たすガイド、この３つを中心にしながらガイドを養成し、実施していきたいと思っているところであります。

　１つ宇奈月温泉の魅力向上というか、環境整備ということでございますが、ハード・ソフトで考えていかなければいけないということでございます。Wi－Fiについては今年度中に実施するということでございますが、様々な課題がございます。景観整備の問題にしても、あるいは地域の魅力向上のためには施設を何か造らなければいけないかなとか、いろいろな課題がございますが、我々としては取りあえず地域として宇奈月温泉に来ていただく方に楽しんでもらえるような形のものをまず整備していく必要があろうということで、その一弾としてとちの森遊歩道の再整備を挙げているわけでありますが、それ以外にいろいろな形で市にお願いをしながら整備を進めているところでございます。

　あわせて整備の中においては先ほど説明したものが中心であろうと思いますけれども、宇奈月温泉街の対岸にもう何年か前から桃の木を再生しようということで、桃の里ということで整備を進めているところであります。これは宇奈月温泉が電源開発の以前は桃が大量に自生しているところから桃原という地名になっていたわけでありますが、それがその後桃の木が全くなくなってしまっていたということで、数年前に桃の里再生研究会ができて、今はもう大体200本か300本近く植えているのですが、ただこの地域が実はもともと宇奈月温泉あるいは電源開発をスタートさせるために造った弥太蔵発電所というところがございました。弥太蔵発電所の跡地に造っているのですが、これが今、関西電力が弥太蔵発電所を再整備して、新弥太蔵発電所をお造りになるということで一旦それは全部撤収しますが、発電所ができた時点で桃の里をさらに再生させていただいて宇奈月温泉の新たな魅力にしていきたいということなども考えていきたいと思っております。

　それから、ソフトについてはイベント等も間断なく実施していきたいと思っております。これまでもいろいろなイベントをやっていますが、セレネの質の高いイベントだとか、あるいは高峰譲吉、山田胖と、今、濱田さんが説明された方の顕彰もやっておりますけれども、さらにそういったものも含めた形で宇奈月温泉の魅力を再創出していきたいと思っています。皆さん方のさらなる支援をお願いしたいと思っております。

　以上です。

【西村委員長】

　ありがとうございます。

　続きまして、地元の交通事業者の観点から富山地方鉄道の辻川委員、お願いいたします。

【辻川委員】

　私どもとしてもこの商品化について大変期待もしているところでございますが、ちょっと個人的な話でありますけれども、このルートが開放されるということをお聞きしましてまず思い起こしたのが、吉村昭さんの「高熱隧道」という小説があるわけですが、あの小説をかなり以前読んだわけですけれども、大変厳しい自然環境の中、ここに書いてありますように非常に苦闘して難工事を進めていった物語がきちんと書かれており、多くの方が亡くなられて、難工事の末、その当時ものすごいパワーで黒部第三ダムを建築して、黒部第四ダムへとつながっていったと認識しておりまして、開放されることをお聞きして、あのすごい物語のある高熱隧道が見られるのだなという思いを改めてさせていただいておりました。そういう意味では黒部第四ダムもありますが、黒部第三ダムの物語も非常に大きい要素ではないかなと思っております。いろいろな課題もあるかと思いますけれども、ぜひそのあたりも光を当てながらアピールできればより良い商品化ができるのではないかなと思います。ぜひよろしくお願いいたします。

【西村委員長】

　ありがとうございます。第三ダムにも光を当てる。

　それでは、県のワーキング会議の副座長も務められました渡辺委員、再度お願いします。

【渡辺委員】

　すみません、さっき時間をいただき過ぎてしまったので一言だけ。

　去年の夏だったですか、私はこのルートを体験させていただきました。宇奈月温泉から回る時計回りルートだったのですけれども、率直に言って結構感動がありました。もちろん感動は測れないのですけれども、ちょっとオーバーに言うと、初めてグランドキャニオンに行ったときの感動に似ています。レベルとしてそんな感じでした。旅行業の専門家がおられる前で甚だ恐縮なのですけれども、旅行日程を作るセオリーが実はありまして、旅行日程は時間の流れで言いますと、最初に「ファーストインパクト」があってお客様をあっと言わせて、その次に「ハイライト」というメインテーマがあって、その後「余韻」があるのです。いいツアーを見ると大体日程がこうなっているのですが、実はこのルートはこれにかなりぴったりです。トロッコ電車に乗ってだんだん盛り上がって、メインのところの黒部ルートはほぼトンネルですが、乗り物の変化があって、ガイド次第ではかなり盛り上がります。その後アルペンルートを下ってくるという、まさにきれいな景色の中で余韻です。そういう意味でセットとしてみるとすごく感動を売れる商品だと思います。

　もう一つだけ言うならば、今回黒部ルートについていろいろ議論しているのですけれども、当然のことながらお客様から見ると黒部ルートだけを経験するわけではなくて、富山県という時間の帯というか、旅行の帯を見るわけです。ですので、私の場合は前がトロッコ電車、最後がアルペンルートだったのですが、黒部ルートが前後にかかわらず関連する全ての観光施設・商品に影響を与えるのです。なので、さっき佐々木委員さんがブランドの連携という言葉をお使いになったのですけれども、これはすごく大事だと思うのです。黒部ルートだけではなくて、その前後左右に関連してくる観光設備も一緒に考えなければいけないということです。古い話で恐縮なのですけれども、安房トンネルができたときに、東京から見ますと上高地・安曇野の売り方と、向こう側の飛騨側の高山の売り方が変わったのです。ひとつのルートで行けるようになったからです。それとこれは多分似ている部分があるかと思うのです。ですので、黒部ルートだけにとらわれずに、帯として前後左右の価値を上げていくことが売れる商品につながるのではないかなと思います。

【西村委員長】

　ありがとうございます。

　発言が最後になってしまって大変恐縮ですけれども、地元市長でもいらっしゃいます大野委員にコメントをお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

【大野委員】

　ありがとうございます。私どもは世界ブランド化推進会議の流れを受けながら今日のお話をじっくり聞かせていただいておりました。知事も触れましたけれども、このことは富山県内の一部の地域だけではなくして、県下全体の観光振興とか産業観光をどう進めるかというところに確実につながる話でありまして、御出席の委員の方々から先ほどそれぞれに大変参考になる御見識の高いお話を聞いておりまして、一番影響のある地元黒部市の市長としてはまずお礼を申し上げたいと思います。

　その上でこれだけ議論が進んでいる中で懸念していることが１点あります。それはこの商品化を進めるに当たって、果たして売り出し方として名称をどうするのか。「黒部ルート」でいいのかどうかというところは私は前々から気になっておりました。いよいよこの数年間で準備をしなければならないというプロセスの中で、Ａというところは「黒部ルート」、Ｂというところは違う名前というのは私はあっては困るなと。具体的なことを申し上げますと、今まで我々はこのコースについては「関西電力黒部ルート」と言ってまいりました。関西電力さんがこの取り組みを始めるに当たって、あえて大事な会社の名前を消されまして、「宇奈月黒部ルート」とされております。今日もそういう資料を出されました。このあたりが非常に大事なことだと思いまして、係る方々に意見を聞きましたら、大野市長、せっかくならやはり関電さんが言っているような「宇奈月黒部ルート」がいいとか、あるいはもっと分かりやすく「黒部ダムルート」にしなさいとか、あるいは「黒部ダム秘境ルート」にしなさいとか、「黒部宇奈月ダムルート」にしなさいとか、幾つも私のところに意見が来るのです。非常に関心があるという点で私はうれしく思っておりますが、まとまらない。それはどこで決めるのか。ある意味で私は今日この設置要綱を見ましたら、ひょっとするとこの準備会議の第２条に引っかけてここで決めてもいいのかなと思ったりもしておりますが、一方では渡辺委員の資料の中にもあったとおり、プロモーションの中の下段に黒部ルートのネーミング、愛称は公募すべきというのがあり、これは参考になりますが、例えばネーミングでも正式名称イコール愛称ということもあると思います。「立山黒部アルペンルート」というのは正式名称であって愛称はないですよ。一部のところを「天空の道」とか「天空回廊」と呼んでいるものもありますけれども、非常に売れていません。やはり「立山黒部アルペンルート」なのです。私は率直に申し上げまして、「立山黒部アルペンルート」と「黒部ルート」でいくと、申し訳ないですが、どうも「黒部ルート」そのものが「立山黒部アルペンルート」の一部として包括された形になってしまうのではないかということを危惧しております。したがって、全体を一体のものとして考えていくことはもちろん大事です。大事ですけれども、やはりこのルートはこのルートで正式名称を早く決めて、その上でこの議論をどんどん進めていくということが地元としてはありがたいなと。今日は時間がありませんのでこの程度にします。よろしくお願いいたします。

【西村委員長】

　ありがとうございます。命名というのは大事なことだと。ありがとうございました。

　もう時間が押しておりますので、最後に石井知事から一言いただければと思います。よろしくお願いします。

【石井知事】

　先ほどもいろいろ発言させていただいたので簡単にいたしたいと思いますけれども、永守さんのお話にもありましたように、石川県、金沢、五箇山、いろいろなところとの連携、また全世界に発信していくことは大事なことだと思います。

　また坂井さんがおっしゃったように、ぜひ全県的な取り組みをよろしくお願いしたいなと。

　またお話のように高熱隧道にも光をというのは全くごもっともでございます。

　渡辺委員さんから改めて感動の三段階の話をいただいて、おっしゃるとおりだなと思っております。

　今、大野委員さんから名称の話なども出ました。何らかの名称、愛称が要るのかなと思っておりまして、この点については設置要綱を根拠にというお話もありましたが、黒部市さんや関係者の方もたくさんおられますし、黒部ルートは関電の岩根社長といろいろ交渉、議論させていただいたときも60年来の懸案でもありますし、まさにこれは県民、国民の財産なのだからぜひ一般開放をお願いしたいということでやっていまして、なるべく幅広い方々の御意見も踏まえた形で決めるといいなと思っておりまして、その点については今後少し関係方面と御相談しながら進めていきたいなと。

　また直結するかどうか分かりませんが、そうしたことも念頭に置いて今度の予算でも関係の検討費、調査費的なものも組んでみたいなと思っております。

　今日はどうもありがとうございます。

【西村委員長】

　どうもありがとうございました。

　当初は発言をもう一度とも思っていましたけれども、どうももう時間が大幅にオーバーしておりますので、ここで終わりにさせていただくのでよろしいでしょうか。どうもありがとうございました。それでは、意見交換はここまでにしたいと思います。進行に御協力いただきましてありがとうございます。

　それでは、この後の進行を事務局、よろしくお願いいたします。

【司会】

　どうもありがとうございました。

　それでは、これをもちまして第１回「黒部ルート一般開放・旅行商品化準備会議」を閉会させていただきます。皆様方には長時間にわたり誠にありがとうございました。